

2025年2月27日

～産学金協働による水循環保全イベントを熊本で開催～

グリーンインフラ普及による 「熊本ウォーターポジティブ・アクション」を始動

公立大学法人 熊本県立大学（理事長：黒田 忠広）、国立大学法人 熊本大学（学長：小川 久雄）、株式会社肥後銀行（代表取締役頭取：笠原 慶久）、サントリーホールディングス株式会社（代表取締役社長：新浪 剛史）、株式会社日本政策投資銀行（代表取締役社長：地下 誠二）、MS & ADインシュアランスグループホールディングス株式会社（取締役社長 グループCEO：船曳 真一郎）は、産学金協働の「熊本ウォーターポジティブ・アクション※¹」を始動します。

本アクションは、地下水保全に取り組んできた実績に基づき、6組織が協働で、金融的手法を活用して、熊本地域でのグリーンインフラ※²導入による水循環保全のメカニズムを推進するものです。また、6組織だけでなく、多くの主体が参加できる仕組みを構築します。この取り組みを通じて健全な水循環を維持し、豊かな市民生活と地域経済を支える「水の国くまもと」のさらなる発展を目指します。

※¹ 本アクションにおけるウォーターポジティブは「流域内での土地改変や取水に伴う水への負（ネガティブ）の影響に対し、水を育む自然の保全や水源涵養、再生水の活用などにより、流域内に同等以上の水を還元すること」と定義します。

※² 自然環境が持つ多様な機能で自然災害や地球温暖化等の社会課題を解決し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める考え方や取り組み

1. 本アクション始動の背景

水と緑に恵まれた豊かな熊本地域では、これまで市民・行政・企業の協力のもと、地下水の保全と活用に関する取り組みが長らく続けられてきました。同取り組みは世界的にも評価されており、2013年には国連「生命の水」（水管理部門）最優秀賞を受賞しています。

一方、近年、大規模な都市開発や工場進出に伴う田畑等の土地改変による地下水涵養量の減少や水災リスクの高まりなどが懸念されており、水循環の保全（ウォーターポジティブ）とそれを支える自然環境の再生・保全（ネイチャーポジティブ※³）を地域全体で推進することが一層重要となっています。

こうした状況を受けて、6組織は、熊本県、熊本市、公益財団法人くまもと地下水財団をオブザーバーとして、2024年3月から検討を進めてきましたが、この度、さらなる活動の本格化を目指し、本アクションを協働して始動することとしました。

※³ 自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること

2. 本アクションの概要

本アクションでは、雨庭などのグリーンインフラを用いて、開発が進む地域における水循環の保全に取り組みます。緑を活用した水循環の保全は、地下水の涵養とともに内水・外水氾濫の軽減、ヒートアイランド対策、景観の向上や生物多様性の向上など多面的な効果が期待できるとされています。

企業の自発的なグリーンインフラの設置を支援しながら、自然クレジット※⁴の原則に基づき、グリーンインフラがもつ地下水涵養量等の価値をクレジット化する革新的な金融手法の研究開発を進めます。こうした金融手法を活用し、官民連携の資金メカニズムでグリーンインフラのさらなる導入を目指します。

6組織がそれぞれの強みを活かし、社会全体での水循環保全の取り組み促進を目指します。

※⁴ 自然の保全、回復、適切な管理活動からもたらされる、生態系や生物多様性への測定可能なプラス成果のこと。自然や生物多様性の改善・向上を目的に資金提供する経済的手段として世界的に注目を集めている。

< 6 組織の役割 >

熊本県立大学 熊本大学	グリーンインフラに関する長い研究実績をもち、地下水涵養をはじめ、地域に還元される多面的なインパクトの評価手法を開発します。
肥後銀行	熊本の宝である地下水の保全活動や環境問題に、永年、積極的に取り組んできました。近年は取引先へのグリーンインフラの導入提案を積極的に進めており、支援の輪を拡大させています。これらの活動を継続するとともに、本アクションと地域をつなぐ役割を担います。また、新たな資金調達手法の研究開発と地域への展開を図っていきます。
サントリーホールディングス	熊本地域の地下水に支えられ、サントリー九州熊本工場を操業し、20年以上前から続く「サントリー 天然水の森」や、「冬水田んぼ」の活動を通じて熊本地域の地下水保全に取り組んできました。また、近年は地下水シミュレーションモデルによる地下水量の将来予測の共同研究を、くまもと地下財団と共に実施しており、これらに基づく経験やデータを元に本アクションによる地下水保全効果の科学的検証に貢献していきます。
日本政策投資銀行	世界で初めて「環境格付」の手法を導入した融資メニューを開始するなど、外部不経済の課題解決に金融のアプローチから取り組むとともに、グリーンインフラ分野では国内外での先進事例を通じて資金調達手法や効果の可視化に関する調査研究を行ってきました。これまでの知見や多様なステークホルダーとの連携が可能である特徴を活かして、新たな資金調達手法の研究開発に貢献していきます。
MS & A Dホールディングス	TNFD ^{※5} タスクフォースメンバーに社員を輩出しており、ネイチャーポジティブの国際的な枠組みを踏まえ本アクションを設計し、その成果を国際的に発信していきます。

※5 「自然関連財務情報開示タスクフォース」のことで、企業の事業活動における自然環境や生物多様性への影響を評価し、情報開示の枠組みを開発する国際的組織

3. 始動イベントについて

国連が定めた3月22日「世界水の日」に先立ち、本アクションの始動を記念するイベントを、3月20日（木）に開催します。

当日は、アクション始動宣言や、熊本県知事や熊本市長等の来賓によるご挨拶、フォトセッション、シンポジウムを予定しています。

熊本地域の水資源や自然環境に興味を持たれている一般の方や、熊本地域に関わる企業の環境・管理部門、総務・不動産部門、サステナビリティ部門、ネイチャーポジティブや地下水や水循環の保全、グリーンインフラに関心をもっている方など、皆さまのご参加をお待ちしております。

(1) 日 時：2025年3月20日（木・祝） 13：30～16：00

(2) 場 所：株式会社肥後銀行 本店 2F

(3) 開催方法：対面・オンライン開催／参加費無料

* 詳細は、添付別紙の開催案内チラシを参照ください

添付別紙：熊本ウォーターポジティブ・アクション始動イベントを開催

以 上

～産学金連携による水循環保全に向けて～

熊本ウォーター ポジティブ・アクション 始動イベントを開催

熊本ウォーター
ポジティブ・アクション
始動イベント

雨庭などの自然の機能を活かした設備「グリーンインフラ」[※]を使って、熊本地域の水の循環を守ることに取り組む「熊本ウォーターポジティブ・アクション」が始動するのにあたり、これを記念したイベントを開催いたします。

このアクションは、熊本県立大学、熊本大学、肥後銀行、サントリーホールディングス、日本政策投資銀行、MS&ADインシュアランスグループホールディングスが協働で開始し、地域のさまざまな主体が参加できる仕組みをつくり、グリーンインフラの普及を目指します。

これにより、熊本地域の水循環の保全とともに、洪水リスクの低減、暑さ対策や景観の改善、多様な生きものの生息地の回復など、多くの効果が期待できます。

豊かな生活と地域経済を支える「水の国くまもと」のさらなる発展に向けた活動を記念するイベントとなりますので、皆さまのご参加をお待ちしております。

※自然環境が持つ多様な機能が防災や地球温暖化等の社会課題を解決し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める考え方や取組み。「雨庭」はグリーンインフラの一種で、地上に降った雨を、直接下水道や河川へ流さず、地下に浸透させる設備。公共や企業の施設だけでなく、個人の庭などに造ることもできる。

日時 2025.3.20(木・祝)

13:30▶16:00

会場 株式会社 肥後銀行本店 2階
(熊本県熊本市中央区練兵町1番地)

参加費 無料

開催方法 会場およびオンライン開催
(定員:会場400名、オンライン500名)

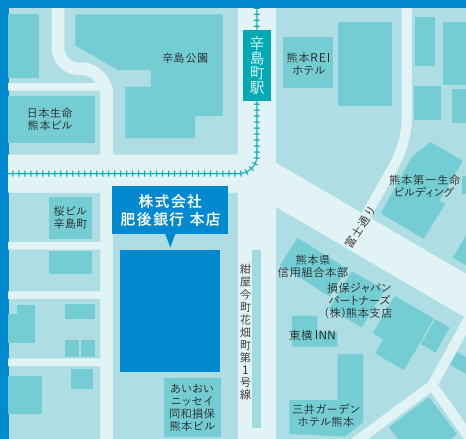
対象者 I. 熊本地域の水資源や自然環境に興味を持たれている一般の方
II. 熊本地域に関わる企業の環境・管理部門、総務・不動産部門、サステナビリティ部門の方
III. ネイチャーポジティブや地下水や水循環の保全、グリーンインフラに関心をもっている方

申込方法 QRコードまたは以下URLからお申し込みください。(締め切り:3月18日)

「熊本ウォーターポジティブ・アクション」始動イベント参加フォーム

<https://x.gd/7vxsT>

※定員に達し次第締め切らせていただきます。会場の定員に達した場合はオンライン参加をお願いする場合がありますので、予めご了承ください。



プログラム

※プログラムは予告なく変更となる場合がありますので、ご了承ください。

第1部 始動の宣言 (13:30▶14:30)

1. 熊本ウォーターポジティブ・アクションのご紹介(動画)
2. 始動によせて
熊本県知事 木村 敬氏/
熊本市長・公益財団法人くまもと地下水財団
理事長 大西 一史氏/
環境省 大臣官房審議官 飯田 博文氏/
国土交通省 総合政策局 環境政策課長 清水 充氏
3. 始動宣言
4. フォトセッション

第2部 シンポジウム (14:40▶16:00)

「熊本ウォーターポジティブ・アクション」で実現する未来

なぜ、この熊本でウォーターポジティブに向けた取組を開始するのか?各企業が行ってきたこれまでの取組と今後の役割や、本アクションの目指す方向性や可能性について議論します。

パネリスト：熊本県立大学 特別教授 島谷 幸宏/熊本大学 教授 皆川 朋子/

肥後銀行 地域振興部長 大野 隆/

サントリーホールディングス 常務執行役員 サステナビリティ経営推進本部長 藤原 正明/

日本政策投資銀行 常務執行役員 原田 文代/

MS&ADインシュアランスグループホールディングス 常務執行役員 本島 なおみ

ファシリテーター：公益財団法人くまもと地下水財団 事務局長 勝谷 仁雄氏/

TNFDタスクフォースメンバー※原口 真(MS&ADインシュアランスグループ)

※TNFDとは「自然関連財務情報開示タスクフォース」のこと。企業が自身の事業活動と自然環境や生物多様性の影響を評価した情報の開示により自然の損失から回復へと資金の流れを変えることを目指す。タスクフォースは世界で40名のメンバーによって構成されています。

雨庭整備のメリットと

「熊本ウォーターポジティブ・アクション」に期待すること

本アクションは、市民・行政・企業などと幅広く協力しながら、ウォーターポジティブに向けた活動を行っていきます。既に先行して雨庭設置に取り組まれている方々より、事例紹介と本アクションへの期待をお話しいたします。

1. 熊本県立南稜高等学校
2. 株式会社オジックテクノロジーズ

主催：公立大学法人 熊本県立大学/国立大学法人 熊本大学/株式会社 肥後銀行/サントリーホールディングス株式会社/
株式会社 日本政策投資銀行/MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社